

令和元年度 高志高等学校SSH課題研究発表会 開会挨拶

令和元年7月9日（火）
アオッサ8階県民ホール

皆さん、こんにちは。

今日は、3年生諸君が、長い時間と労力を注いできた課題研究の総仕上げ、「生徒研究活動発表会」です。

まず、最初に、高志高校のSSHにご指導・ご協力をいただいております大学、企業、研究機関、教育行政の方々、多大なるご支援を頂戴している科学技術振興機構の方々に、改めてお礼を申し上げます。

日頃、生徒の指導にあたって来られた先生方にも、お礼を申し上げます。

そして、この会の、準備、運営に携わっている実行委員会の生徒諸君にも、お礼をいいます。ありがとう。

午前中、お昼に発表が終わった生徒諸君、発表お疲れ様でした。

さて、世の中は、こと教育界はちょっとした探究ブームになっています。

ブームを加速させているのは、インターネット、コンピュータ、AI、ロボットの目覚ましい発達です。

与えられた問いに正解を出すこと、知識の集積と正確な再生については、人間はコンピュータやAIにかなわない。そのうち、仕事も奪われるようになると警鐘を鳴らす人がいます。

かつては、人間ができないこと、危険なことを、機械やロボットに代替させていました。

これからは、コンピュータやAIができないことを、人間が担う時代になるのかもしれない。

それは、何か。

私は、「創造」、「協働」、そして、「探究」ではないかと思います。

高志高校が福井県で初めてSSHの指定校になったのは、平成15年、生徒諸君が赤ん坊、乳幼児の頃です。

高志高校は、君たちの人生と同じくらいSSH、探究的な学び、課題研究とともに歩んできました。

- ・自分の興味や日頃疑問に思っていることから探究課題を設定すること
- ・実験や観察、調査を繰り返してデータを蓄積し、分析・検証すること
- ・事実として言えること、考えられることを言語化し、発表すること

- ・ 批判と議論を重ね、考えを練り上げること、新たな課題を設定すること
- ・ それらを積み重ねて、創造、解決することによって社会貢献すること

3年生諸君、自信をもってください。

君たちがやってきたことは、今言った探究という学びのプロセスは、大学に入る前の勉強にも、大学に入ってからのも、そして、大学を出た後の仕事に、きっと役立つものなのです。

そして、探究することをやめないでください。探究には風船をふくらませることに似ているところがあって、探究すればするほどわからないところが増え、解決すべき課題が増えるところがあります。

第1期SSHの頃の課題研究発表会は、正直、学芸会のようなところからスタートしました。発表者が下を向いて原稿を読む、発表が終わっても質問がない、全体的に何か元気がない。

今はそんなことはありませんよね。君たちは、堂々と顔を上げて発表くれるでしょうし、活発な質疑応答をしてくれるものと思います。英語での発表、質疑応答も、皆が参加できるレベルになってきていると、期待しています。

2年生、先輩の姿を目に焼き付けて、1年後の自分たちのイメージを持ってください。

できれば先輩のテーマを受け継ぎ、さらに発展させてください。そして、先輩達を超えて行ってください。

午前のプログラムに引き続き、午後のプログラムも、充実した内容になることを期待しています。

皆さん、頑張りましょう。そして、大いに探究を楽しみましょう。

最後に、これは別件になりますが、野球部の諸君、13日の夏の甲子園予選、頑張ってください。

終わります。